

岐阜県男女共同参画二十一世紀審議会 意見交換会 発言要旨

日 時	平成25年11月7日(木) 14:00～15:45
場 所	岐阜県庁4階 特別会議室
出席委員	近藤眞庸委員、高木俊徳委員、永井京子委員、林 陽子委員、廣瀬直美委員、別宮理恵委員、度会さち子委員(五十音順)
欠席委員	安藤正弘委員、今井田裕子委員、小原 尚委員、小池肇子委員、切手美穂委員、林 幹広委員、南 圭一委員、宮崎千恵委員、
県 (事務局等)	斉藤環境生活部次長(男女共同参画・少子化対策担当) 田口男女参画青少年課長、崎浦子ども家庭課長、林労働雇用課長
会 議 の 概 要	
<p>1 開会 環境生活部次長あいさつ</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 岐阜県男女共同参画計画(第3次)素案について</p> <p>4 岐阜県配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画(第3次)素案について</p>	
岐阜県男女共同参画計画(第3次)素案について	
委員	目標数値は3つに絞り、数値を明確にしたということでしょうか。もう少し目標というのはあってもいいのかなと感じました。数字がすべてを物語るというわけではないのですが。
事務局	目標数値については、各県も様々な状況です。仮にさらに目標数値を設定するとなると、参考項目の中から選ぶことになると思います。本当に目標を置くべき項目かどうかといった観点や庁内各課が所管する計画との整合性の問題もあります。 そのため参考項目という形で随時状況を見ていき、それぞれの分野について各部局で取り組みを進めてもらえればと考えています。
委員	介護休業の取得状況や介護離職者の状況に関して、男性でも介護による離職者が非常に多くなっていると言われておりますので、どこか文面にそうした状況を文言で入れていただけるといいのではないかと思います。
事務局	42, 43ページの現状と課題あたりでの記載を検討します。
委員	いろいろな方の話を聞いていると、ワーク・ライフ・バランスというのは「女の人の話でしょ」という感覚が根強くあって、男性が趣味の時間を持ったり地域活動に参加することもワーク・ライフ・バランスですよという話をすると、初めて「そうなの?」と言われることがあります。女性が働きやすい環境づくりということもあるのですが、女性が就労できない背景には、「男性のように働けないから」という理由があります。男性の働き方の見直しも必要です。 若い人たちは子育てに関して、何も固定的な考え方はなく、むしろ、もっと上の世代に、今の若い人たちが子育てを理由に休むのかといった考えが残っている。休ませる側の方の意識改革が必要だと感じています。

事務局	<p>そのあたりについては、計画策定の趣旨で男性にとっての男女共同参画といったことを記述しております。</p> <p>また、43ページでワーク・ライフ・バランスの気運の醸成や企業の方にそういったことを考えていただきたいといったこと挙げており、このあたりが第3次計画の一つの大きな取組になるのではないかと考えています。</p> <p>DVの計画もそうですが、今回、「男性に向けた」といったことをかなり意識しております。重点課題としても「男性にとっての男女共同参画の推進」を掲げております。</p> <p>企業さんのお話を聞く機会がありますが、企業経営者や管理職の方で理解のある方は、「できるだけ自分の会社で仕事を続けてほしいんだ。」という思いがあり、時間を短縮した仕事の仕方等を考えておられるとのことでした。</p> <p>また、男性についても、いざという時にどうしたら会社として助けられるだろうかといったことや、実際に男性社員が会社を休んで乗り切ったことでもありますよといった話も聞かせていただきました。</p> <p>やはり、同じ職場で仕事を続けていくには、経営者の方等の理解が重要です。</p>
委員	<p>少子化の問題もワーク・ライフ・バランスのことも、次の議題のDVの問題もおそらく根っ子のところは同じようなところにあるのではないかと感じております。</p> <p>女子学生の中には専業主婦願望といったものもありまして、自分も夫も仕事をバリバリやっていたら子どもはどうなってしまうのかという心配があるようです。これは極めてノーマルな感覚だと思います。</p> <p>今の大学生の意識の中には働くことについては男性モデルというものが基本形としてあるため、それ以外のことはそれに合わせないといけないと思ってしまう面がある。根っ子はそういったところにあるのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>キャリア教育を一生懸命やろうと言われますが、岐阜大学は愛知と岐阜から半々で入学してきます。そして就職は地元志向が強いです。岐阜大学の卒業生が地元で就職して管理職になっていくこともあるので、先ほどの管理職になった時の意識の問題についてももしっかりやっていかなければと思っています。</p> <p>私もこうしたことに関わった結果、こうした考えを持つようになった面もあるので、普通の男性も同じだと考えれば、地道な啓発というのが大事ではないかと思っています。</p>
委員	<p>ワーク・ライフ・バランスについては、「仕事と家庭の両立」ではなく、「仕事と生活の両立」という言い方をしています。</p> <p>家庭と言ってしまうと独身の方にはイメージできない部分もあり、そうしたことからワーク・ライフ・バランスという言葉も普及していかないのではないかと感じている。生活者としてワーク・ライフ・バランスの話をした方が様々な年代の人にも浸透させることができるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>42ページに注釈を入れており、そこでは仕事と生活としています。本文中でも、仕事と家庭生活、地域活動、自己啓発なども含めて仕事とバランスを取りましようといった形で記述しております。ただし、最初に出てきた時が仕事と家庭といった言われ方をしていた時期もあり、そのイメージが強く残っている面もあると思います。</p>
委員	<p>就職やシングルファーザーとかそういったことの相談体制の充実というのはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>実際、分野があまりにも多岐にわたっており、それぞれの分野で相談窓口を持っておりますので、この計画で改めて書いてはいません。もし入れるとすれば広報のところでしょうか。どのように書き加えることができるかも検討してみたいと思います。</p>

岐阜県配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する基本計画（第3次）素案について	
委員	若年層におけるDVの実態調査の結果は、いつ頃出るのでしょうか。
事務局	速報という形で年明け頃にはと思っています。その時点で本文を書き加えたいと思っています。
委員	<p>若年層に対する予防教育の中で、学校に行くと「まず、教員に男女共同参画の勉強をさせてほしい」といったことを言われます。特に最近、そう言われることが多いです。</p> <p>もっと教員研修をやってもらえるといいのではないかと考えています。</p> <p>学校によってはスポーツセクハラの問題も取り上げてほしいといった要望も寄せられます。</p> <p>教育の場ではそういったことがとても大事だと思います。学校ごとで教員研修ができるといいと思います。</p>